

《担当者名》薄井 明（看）

【概要】

「社会学（sociology）」は、高校までの「社会科（social studies）」とは異なる。また、社会学は同じ「社会科学（social sciences）」に属する法学や経済学とも区別されるが、それは単に考察対象が違うのではなく、同じ対象であっても分析・考察する視点や概念が異なることによる。社会学のキーワードには、例えば「相互行為」「地位と役割」「社会関係」「同調と逸脱」「集団と組織」「インフォーマル・グループ」「社会階層」などがある。これらの概念を駆使して、他の学問とも異なり、「常識的な見方」とも異なる独自の分析・考察を提供するところに社会学の面白さがある。

【学修目標】

現代社会に発生する対人相互的および全体社会的な諸現象を各自が分析できるような基本的な観点、すなわち「社会学的思考法」を身につける。

「無礼」「不作法」とカテゴライズされる対人現象が「逸脱行動」として独自の位相にあることを理解し、これに該当する現象を識別・収集し、「相互行為儀礼」の観点から分析できるようになる。

「会話」という相互行為現象を「会話分析」の観点から分析する基礎を身につける。

「自己成就的予言」「自己破壊的予言」のメカニズムを理解し、これに該当する現象を識別し、分析できるようになる。

逸脱行動に対する「常識的な見方」を反転し、「レイベリングと逸脱行動」の観点からこれに該当する現象を識別し、分析できるようになる。特に、戦後日本の精神医療の「問題点」に関して、自分の意見をもてるようにする。

「準拠集団と相対的剥奪」に該当する現象を識別し、分析できるようになる。

現代社会の変動のトレンドを理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	「社会学的思考法」とはどのようなものか、「社会」のいくつかの水準について考察する。	薄井 明
2	対面的相互行為（1）	対面的相互行為を「相互行為儀礼」の観点から考察する。その手がかりとして侵害行為としての「迷惑行為」の独自の位相を理解する。	薄井 明
3	対面的相互行為（2）	引き続き「相互行為儀礼」論から対面的相互行為を「神聖な自己」「テリトリー」「関与」の側面から考察する。	薄井 明
4	対面的相互行為（3）	会話を主とする相互行為を「会話分析」の観点から考察する。会話分析の基礎理論として「発話番交替システム」を紹介する。	薄井 明
5	対面的相互行為（4）	引き続き「会話分析」の考え方を紹介する。（「隣接ペア」「挿入シーケンス・先行シーケンス」「分離標識」「語る権利の取得」など）	薄井 明
6	対面的相互行為（5）	「会話分析」の具体例を「語り」に焦点を当てて紹介する。	薄井 明
7	社会的相互作用（1）	人々の社会的行為が集積した帰結としての「自己成就的予言」のメカニズムを実例（「株価の下落」「金融機関の取り付け騒ぎ」など）に即して考察する。	薄井 明
8	社会的相互作用（2）	「自己成就的予言」の他の事例を紹介し、全く逆の「自己破壊的予言」についても考察する。	薄井 明
9	社会的相互作用（3）	非行・犯罪の理論である「レイベリングと逸脱行動」論の基本的な論点を紹介する。	薄井 明
10	社会的相互作用（4）	引き続き「レイベリングと逸脱行動」論について考えるが、「戦後日本の精神医療と精神障害者の社会復帰」の問題に焦点を当てる。	薄井 明
11	集団と階層（1）	個人と集団との関係の問題のうち「準拠集団と相対的剥奪」について考察する。	薄井 明
12	集団と階層（2）	「準拠集団と相対的剥奪」を「中途障害者」に当てはめて考察する。	薄井 明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13	集団と階層(3)	現代社会における相対的不満の増大の問題を「準拠集団」としての「階層」の観点から考察する。	薄井 明
14	現代社会	現代社会の変動のトレンドの問題のうち、「合理化と官僚制化」「ポスト産業社会と情報社会」などについて考察する。	薄井 明
15	総括	これまでの学習事項を確認し、残された課題を展望する。	薄井 明

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

中間課題(15%) + 定期試験(85%)

【教科書】

使用しない。

【参考書】

安川 一編『ゴフマン世界の再構成』(世界思想社)
 渋谷 昌三『人と人との快適距離』(日本放送出版協会)
 その他、適宜紹介する。

【備考】

適宜、資料を配付する。

【学修の準備】

「相互行為儀礼」のテーマ終了後に中間課題を出すので、学習内容を復習すると同時に、「無礼・不作法」にまつわる現象を観察し記録・メモをとっておくこと。

事前に配付資料を渡すことがあるので、その際は必ず読んでおくこと。また、授業内の配付資料で割愛した箇所は授業後に必ず読んでおくこと。(予習(80分)・復習(80分))

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得するという、心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している